

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	解剖学 I	授業時期	前期	授業時数	60
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 骨や関節が人体のどこにあるか答えることができる。 2. 骨や関節の構造について説明することができる。 3. 骨や関節の部位を体表より触診することができる。			評価方法			
授業概要	解剖学を学ぶ意義・目的を考え、人体構造を把握した上で、全身の骨の名称、構造、機能を骨模型・体表解剖・模写などの手法を用いて理解する。			期末試験 60% 単元試験 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTビジュアルテキスト解剖学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週 (2コマ)	解剖学総論						
第2週 (2コマ)	身体の区分、面や方向を示す用語						
第3週 (2コマ)	骨の構造、関節の形態と可動域						
第4週 (2コマ)	単元試験1						
第5週 (2コマ)	上肢の骨						
第6週 (2コマ)	上肢の関節						
第7週 (2コマ)	単元試験2						
第8週 (2コマ)	下肢の骨						
第9週 (2コマ)	下肢の関節						
第10週 (2コマ)	単元試験3						
第11週 (2コマ)	頭部の骨						
第12週 (2コマ)	椎骨、胸郭の骨						
第13週 (2コマ)	頭頸部と体幹の関節						
第14週 (2コマ)	単元試験4						
第15週 (2コマ)	定期試験対策						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	運動学 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にて患者の評価・検査経験39年を有する	担当者	河元 岩男	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1. 骨格筋の構造と種類および機能が理解できる。 2. 全身の骨格筋の概観が理解できる。 3. 上下肢・体幹の筋を模写・線取りし名称がわかる。 4. 上下肢の主要な筋の起始・停止・作用・神経支配が言える。			評価方法			
授業概要	人体構造を把握したうえで、筋の構造と機能、筋の分類と形状、全身の筋の名称、主要な筋の起始・停止、作用、神経支配を筋模型・体表解剖・模写などの手法を用いて学ぶ。			期末試験 60% 確認テスト 40% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	解剖学、肉単、必修ポイント基礎医学	使用器材	等身大骨格模型、筋模型、ビデオ				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	I. 筋の構造 1. 筋の種類 2. 骨格筋の各部の名称 3. 収縮の種類 P29～						
第2週	3. 収縮の種類 4. 骨格筋の形状による分類 P31～						
第3週	前回までの復習、確認テスト1						
第4週	II. 全身の筋 学習ポイントの確認 1. 上肢の筋-1 P65～						
第5週	1. 上肢の筋-2						
第6週	2. 上肢の主要な筋-1						
第7週	2. 上肢の主要な筋-2						
第8週	前回までの復習、確認テスト2						
第9週	3. 下肢の筋-1						
第10週	3. 下肢の筋-2						
第11週	4. 下肢の主要な筋-1						
第12週	5. 下肢の主要な筋-2						
第13週	前回までの復習、確認テスト3						
第14週	頭頸部・体幹の筋						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業進行に沿い、模写・ふちどりを繰り返し、バランス良く、見ないでもできるようになりましょう。主要な筋は英語名もいえるようにないましょう。						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	社会福祉学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	安岡 武紀	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 日本の社会福祉の考え方や社会福祉の歴史について説明できる。 2. 対象者別の福祉や地域福祉などを図解や実例で学び説明できる。			評価方法			
授業概要	理学療法士や作業療法士などに必須の社会福祉を協働の視点で学習する。			期末試験 100%  (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	コメディカルのための社会福祉概論	使用器材	適時プリントを配布				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	オリエンテーション、社会福祉の意味						
第2週	日本の社会福祉の歴史						
第3週	社会保障制度と社会福祉を展開する組織						
第4週	子ども福祉・少子化対策						
第5週	障害者福祉の考え方						
第6週	高齢者福祉・高齢者を取り巻く状況						
第7週	介護保険制度と専門職の役割:チームアプローチの必要性						
第8週	所得者福祉・貧困とは						
第9週	地域福祉とその推進方法						
第10週	医療福祉について						
第11週	精神保健福祉・精神障害者とは						
第12週	社会福祉施設の役割						
第13週	社会福祉を担う人々・社会福祉専門職のおもな職種と業務内容						
第14週	社会福祉における相談援助の目的と対象						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	予習として教科書を読み、分からない専門用語をノートに書きだして調べておくこと。						

令和5年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	リハビリテーション概論 I	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	臨床経験12年	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①理学療法の定義を正しく理解する ②理学療法の業務の流れや職能(責任)について理解する ③研究手法を理解し、理学療法士の役割を理解する			評価方法			
授業概要	理学療法の定義を理解した上で、理学療法の流れや臨床での役割を理解する。			期末試験80% 小テスト20%			
教科書等	理学療法概論テキスト 改定第3版	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	理学療法って何だろう A定義 B各種技術 C歴史 Dリハビリテーション						
第2週	理学療法って何だろう E障害(ICIDHとICF)及び、理学療法士に関連する法律を学ぼう						
第3週	理学療法士の役割						
第4週	理学療法士に求められる臨床思考って何だろう						
第5週	小テスト① 補足						
第6週	理学療法の実際ってどんな流れなの						
第7週	理学療法士ってどんなところで活躍しているの						
第8週	理学療法士の職能って何だろう						
第9週	理学療法(士)教育とは						
第10週	小テスト② 補足						
第11週	フィールドワークをやってみよう						
第12週	理学療法研究ってどうすればいいの						
第13週	理学療法士に必要な管理や運営上、知っておくべきことって何だろう						
第14週	小テスト③ 補足						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	心 理 学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	チーム医療、メンタルサポート介入経験有り	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	基本的な心理学について学ぶ ・記憶・知覚・推論などの基礎について学ぶ ・発達の段階について基礎を学ぶ ・感情の基礎について学ぶ			評価方法			
授業概要	基礎心理学を一通り学習し、国家試験に出題している項目については、詳細に学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	グラフィック心理学	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	ワーク						
第2週	ワーク						
第3週	ワーク						
第4週	知覚						
第5週	記憶						
第6週	学習						
第7週	思考						
第8週	思考						
第9週	試験						
第10週	感情・動機付け						
第11週	パーソナリティ						
第12週	発達 その1						
第13週	発達 その2						
第14週	リハビリテーション心理学						
第15週	試験対策						
授業外 学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

令和5年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	公衆衛生	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1 「公衆衛生」という分野を理解し、多岐に亘るところへ活用される学問について考えを深められるようになる。 2 自身の生活の中で身につく、統計学や公衆衛生の活用の仕方を学ぶ。			評価方法			
授業概要	公衆衛生は、人々の健康が自然・社会・文化的環境と強くかかわっていることを理解し、人々の生涯にわたる健康に関する諸制度の整備と保健活動を組織的に推進するものであることを学習する。			期末試験 90% 提出物 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	分かりやすい公衆衛生	使用器材	ノートパソコン				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	公衆衛生とは						
第2週	健康と環境						
第3週	健康の指標						
第4週	感染症とその予防						
第5週	食品保健と栄養						
第6週	生活環境の保全						
第7週	医療・介護の保障制度						
第8週	地域保健活動						
第9週	母子保健						
第10週	学校保健						
第11週	生活習慣病						
第12週	難病対策						
第13週	健康教育とヘルスプロモーション						
第14週	精神保健福祉						
第15週	産業保健						
授業外学習指示等	付随してある「整理ノート」の中の確認問題は、各自で復習しテストに向けて解いていく。						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	生体力学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院にて患者の評価・検査経験39年を有する	担当者	河元 岩男	授業方法	講義・演習	単位数	2
到達目標	1 生体力学と理学療法との関連を理解できる。 2 運動学の中での位置づけを理解できる。 3 身体運動の基礎を理解できる。 4 力学の基礎を理解できる。 5 姿勢保持について力学を応用できる。			評価方法			
授業概要	生体力学の概要を把握し、運動学さらに理学療法への応用を学んでいきましょう。 物理学の力学の知識が必要になりますが、基本を整理しながらすすめます。グループワークを取り入れ体を動かしながら理解していきましょう。			期末試験 70%  確認テスト 30%  (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのための運動学テキスト	使用器材	パソコン				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	生体力学と運動学、運動学の定義						
第2週	I. 生体力学の基礎 1. 生体力学で必要とされる変数 2. 身体運動の面と軸 3. 基本的な運動方向の定義 4. 骨と運動と運動面・軸の表し方 5. 各肢節の運動方向						
第3週	6. 関節包内運動 7. 関節包内運動の実際 8. 凹凸の法則 9. 固定の肢位とゆるみの肢位						
第4週	前回までの復習、確認テスト1						
第5週	II. 力学の基礎 1. 身体運動の力学の基礎(力とモーメント)						
第6週	2. 力とトルク(力のモーメント)の単位						
第7週	3. 身体運動における力と関節モーメント						
第8週	前回までの復習、確認テスト2						
第9週	4. 人体にみられる「てこ」の種類 5. 単位によく使用される接頭語						
第10週	6. 生体力学の国家試験問題解説						
第11週	前回までの復習、確認テスト3						
第12週	III. 姿勢 P341 1. 用語の定義と生体力学						
第13週	2. 支持基底面、重心の位置関係の分析 P350						
第14週	体重計を用いた床反力の確認 P381						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	中学の理科・高校の物理の教科書で力学を復習しておきましょう。						

令和5年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	医学英語	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	西山 栄一	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 医学英語に特有の語彙や表現に慣れる。 2. 臨床現場における医学英語を理解できる。 3. 国際的な学術雑誌やデータベースに掲載されている医学用語の内容を正確に、かつ効率的に理解できる力を身に付ける。			評価方法			
授業概要	臨床で用いる医学用語の基礎と実際を学ぶ。			期末試験 80% 単元試験 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーションの基礎英語	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授業項目・内容						実施結果
第1週	医学英語 総論						
第2週	運動と身体						
第3週	リハビリテーション						
第4週	人体の基礎知識						
第5週	関節可動域						
第6週	骨格系・骨・関節						
第7週	単元試験1						
第8週	上肢筋						
第9週	下肢筋						
第10週	神経						
第11週	疾患別リハビリテーション1 骨折・慢性腰痛						
第12週	疾患別リハビリテーション2 関節炎・スポーツ障害・脊髄損傷						
第13週	疾患別リハビリテーション3 パーキンソン病・脳卒中・慢性閉塞性肺疾患・嚥下障害						
第14週	単元試験2						
第15週	定期試験対策						
授業外学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						



令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	リハビリテーション概論Ⅱ	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. リハビリテーションの定義を正しく理解する。 2. リハビリテーション医療の対象や現状、各専門職の役割について知る。 3. 国際障害分類、国際生活機能分類について理解する。			評価方法			
授業概要	リハビリテーションの理念、目的を理解した上で、リハビリテーション医療の流れ、リハビリテーションの組織を学ぶ。さらに、他職種連携について学習する。			期末試験 60% 単元試験 30% 課題提出 10% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医学生・コメディカルのための 手引書 リハビリテーション概論	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	リハビリテーション概論 総論						
第2週	リハビリテーションの概念・理念・定義						
第3週	健康と障害の理念と分類						
第4週	国際障害分類(ICIDH)・国際生活機能分類(ICF)・廃用症候群						
第5週	単元試験1						
第6週	医療とリハビリテーション専門職種と役割 医師・看護師・義肢装具士・臨床心理士						
第7週	医療とリハビリテーション専門職種と役割 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士						
第8週	医療とリハビリテーション専門職種と役割 医療ソーシャルワーカー・介護福祉士・介護支援専門員						
第9週	医療・リハビリテーション医療－医療機関で行うリハビリテーション治療と義肢・装具－						
第10週	単元試験2						
第11週	高齢者・健康対策と少子化対策、医療・福祉制度、医療法・福祉関係法規						
第12週	リハビリテーションの諸段階・リハビリテーション過程						
第13週	単元試験3						
第14週	国家試験対策						
第15週	定期試験対策						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	生理学 I	授業時期	前期	授業時数	60
実務経験	病院・施設で患者疾患治療経験	担当者	松本 和代	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	各臓器における構造と機能を理解し、生理学の知識を応用して理学療法の評価及び治療を展開する力を養う事を目標とする。			評価方法			
授業概要	人体の各器官の正常生理機能を理解する。理学療法にとって重要な器官に関しては詳細にかつ病態について学習する。また、国家試験過去問を授業資料として入れていく。			試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	医学書院 標準PTOT 生理学 PT/OT 基礎から学ぶ生理学ノート	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週 (2コマ)	生命現象と人体						
第2週 (2コマ)	細胞の構造と機能						
第3週 (2コマ)	神経の興奮伝導と末梢神経 試験						
第4週 (2コマ)	中枢神経系						
第5週 (2コマ)	中枢神経系						
第6週 (2コマ)	筋と骨 試験						
第7週 (2コマ)	筋と骨						
第8週 (2コマ)	感覚						
第9週 (2コマ)	感覚 試験						
第10週 (2コマ)	血液						
第11週 (2コマ)	血液						
第12週 (2コマ)	心臓と循環 試験						
第13週 (2コマ)	心臓と循環						
第14週 (2コマ)	心臓と循環						
第15週 (2コマ)	心臓と循環						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。 生理学ノートを活用する。						

令和5年度

## 授業計画書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	コミュニケーション学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験		担当者	前原 絢子	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	グループ学習を含め、コミュニケーションとは何かを学習していく			評価方法			
授業概要	自己の成長を最大のテーマとし、医療職としてのコミュニケーション力は多様化する患者のニーズに応えるために必要不可欠であり、「どんな相手でもOKのプロを目指す」社会人のマナーをはじめ、コミュニケーションスキルを身に付ける。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	PT・OTのためのコミュニケーション実践ガイド	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	オリエンテーション						
第2週	理学療法士を目指すあなたへ：養成教育は異文化教育						
第3週	心身ともに健康な医療従事者になるには						
第4週	自分を知る：性格と傾向及び態度						
第5週	見る力・聞く力・伝える力 ①						
第6週	見る力・聞く力・伝える力 ②						
第7週	見る力・聞く力・伝える力 ③						
第8週	自立した自分に：自己管理・自己実現・就職活動 ①						
第9週	自立した自分に：自己管理・自己実現・就職活動 ②						
第10週	社会人のマナーとしてのコミュニケーション ①						
第11週	社会人のマナーとしてのコミュニケーション ②						
第12週	臨床で役立つコミュニケーションスキル：対話・ラポール						
第13週	臨床で役立つコミュニケーションスキル：質問のしかた						
第14週	臨床で役立つコミュニケーションスキル：対応のしかた						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	予習は教科書の該当箇所を講義前までに読んでおくようにお願いします。授業では大事な部分を集中的に講義する予定です。						

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	理学療法管理学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	臨床での管理・科内運営経験あり	担当者	大久保謙太郎	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	①理学療法士という視座から管理・マネジメントを理解する ②各保険制度の概要を理解し、マネジメントを理解する ③病期別のシステムの理解及び、理学療法管理を理解する			評価方法			
授業概要	理学療法士における管理業務と各種マネジメントの重要性を理解する			期末試験 80% 小テスト 20% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	理学療法管理学とは	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	管理・マネジメントとは 理学療法士の視座から						
第2週	理学療法管理学とは						
第3週	理学療法士の職業倫理						
第4週	組織運営とマネジメント						
第5週	小テスト① 補足						
第6週	理学療法士の職場管理						
第7週	理学療法業務とマネジメント						
第8週	教育・研究のマネジメント						
第9週	保健・医療・福祉の諸制度とマネジメント①						
第10週	保健・医療・福祉の諸制度とマネジメント②						
第11週	小テスト② 補足						
第12週	疾患別・病期別の理学療法マネジメント						
第13週	生活期を支援する理学療法マネジメント						
第14週	理学療法を専攻する学生へのメッセージ						
第15週	試験対策 まとめ						
授業外 学習指示等	授業中に提示される学習課題をノートにまとめる。						

令和5年度

## 授 業 計 画 書

学科・学年	理学療法学科 1年	科目名	情報・統計学	授業時期	前期	授業時数	30
実務経験	臨床での管理・科内運営経験あり	担当者	山本 裕晃	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	1. 基本的な情報処理操作ができるようになる。 2. 統計学の基礎知識を理解する。 3. 各研究方法および統計法を理解し、使用することができる。			評価方法			
授業概要	基本的な情報処理に関する操作を学習する。 統計とは何か、統計がどのように利用されるかを理解し、演習などを通じ統計的な思考方法を身につけさせる。			期末試験 50% 単元試験 50%  (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	配布資料	使用器材	パソコン 配布資料				
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	情報統計学 総論						
第2週	情報処理学 Word・Excel						
第3週	情報処理学 PowerPoint・Search						
第4週	情報処理学 プレゼンテーション1						
第5週	情報処理学 プレゼンテーション2						
第6週	単元試験1						
第7週	単元試験2						
第8週	統計学 1変量データの記述1						
第9週	統計学 1変量データの記述2						
第10週	統計学 2変量データの記述1						
第11週	統計学 2変量データの記述2						
第12週	統計学 研究法手法						
第13週	統計学 検定法手法						
第14週	統計学 エビデンスレベル・推奨グレード						
第15週	定期試験対策						
授業外 学習指示等	毎授業前には、教科書の授業該当範囲を予習しておくこと。						